

コミュニティ・マネジメント特論	教授 仁連孝昭 准教授 鶴飼 修 ほか本学教員、非常勤講師 テーマに即した本学教員・非常勤講師とコア教員のダブルキャストで開講する（詳細は前期開始時に提示する）
<p>【概要】 まちや地域のダイナミクスを創り上げている「人的、文化的、自然的」リソースに着目し、それらをうまく活用する社会的、制度的、経済的な仕組みを理解し、活用する方法について学ぶ。</p> <p>コミュニティ・アーキテクト（以下CA）の活動には、様々なコミュニティとの対話やネットワークの構築が必須である。本講座では、様々なコミュニティ・マネジメントの実践者を講師として招き、多様なコミュニティの①概要把握、②特性把握、③マネジメント手法、④創造手法を学び、実際のプロジェクトにおいて関係するコミュニティをマネジメントできるCAの育成をめざす。</p> <p>【授業計画】（日程・講師は予定）</p> <p>第1回 4/8（5限）〔理念・基礎〕『コミュニティ・マネジメント総論』 仁連孝昭（本学理事）・鶴飼修</p> <p>第2回 4/22（4限）〔理念・基礎〕『新しい時代の企業マネジメント』 森建司（新江州株式会社社長）・鶴飼修</p> <p>第3回 4/22（5限）〔理念・基礎〕『自治体のコミュニティ施策』 清水潤（滋賀県自治振興課）／橋本昌子（彦根市まちづくり推進室）・鶴飼修</p> <p>第4回 5/6（4限）〔理念・基礎〕『NPO、市民活動等の動向①』 阿部圭宏（NPO市民熱人代表）・鶴飼修</p> <p>第5回 5/6（5限）〔実践ノウハウ〕『コミュニティ・ビジネス』 鶴飼修</p> <p>第6回 5/20（4限）〔実践ノウハウ〕『地域事業の創発手法と支援』 西岡孝幸（（財）滋賀県産業支援プラザ創業支援室長）・鶴飼修</p> <p>第7回 5/20（5限）〔理念・基礎〕『NPO、市民活動等の動向②』 北川憲司（滋賀県地方自治研究センター保健福祉医療担当理事）・鶴飼修</p> <p>第8回 6/3（4限）〔実践ノウハウ〕『心象絵図を用いた地域活性化』 上田洋平（県立大地域づくり教育研究センター研究員）・鶴飼修</p> <p>第9回 6/3（5限）〔事例研究〕『商店街再生のマネジメント（仮）』 鶴飼修</p> <p>第10回 6/17（4限）〔事例研究〕『世界の環境共生コミュニティ』 近藤隆二郎（本学教員）・鶴飼修</p> <p>第11回 6/17（5限）〔事例研究〕『女性の自立支援マネジメント』 小川泰江（NPO法人びいめ〜る企画室前理事長）・鶴飼修</p> <p>第12回 7/1（4限）〔事例研究〕『地域デビュー・世代間交流（仮）』 鶴飼修</p> <p>第13回 7/1（5限）〔事例研究〕『産直販売所のマネジメント（仮）』 鶴飼修</p> <p>第14回 7/15（4限）〔成果発表〕『地域ビジネスモデルの提案』 鶴飼修</p> <p>第15回 7/15（5限）〔総括議論〕『コミュニティ創造手法・マネジメント手法』 鶴飼修</p> <p>*学座担当教員によるオフィスアワーを設けるので適宜活用のこと。</p> <p>【成績評価】 各回授業でのミニレポート（学習内容と考察）の提出（14, 15回除く。計13回×5点＝65点満点）及び最終レポート（課題）の提出（35点満点）で評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポート提出を行うこと。</p> <p>【テキスト、指定図書、参考書】 5, 14, 15回テキスト「3日でマスターできるコミュニティ・ビジネス起業マニュアル」細内信孝, 鶴飼修, ぎょうせい, 2003 参考書：「プロフェッショナルの原点」P.F. ドラッカー, ジョゼフ・A・マチャレロ, 上田惇生訳, ダイヤモンド社, 2008。その他、講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。</p> <p>【宿題及び小試験】 各回授業のミニレポート提出。最終レポートとして地域ビジネスのスキームを作成。</p> <p>【履修資格】 近江環人地域再生学座生対象。学座生以外で履修を希望する場合は所定の手続きが必要。</p>	

地域診断法特論	教授 秋山 道雄 准教授 鶴飼 修 ほか本学教員、非常勤講師 テーマに即した本学教員・非常勤講師とコア教員のダブルキャストで 開講する（詳細は前期開始時に提示する）
<p>【概要】 地域再生への取り組みは、初めに地域特性を適切に把握・評価することから始まる。この授業では、地域における、環境、文化、経済等の特性を、さまざまな側面にわたる調査データおよび既存データを駆使して読み解く技術と、分析、評価するための手法を示す。また、地域課題相互の関連性や対処法について、具体的な事例を踏まえて考える。単に対処療法的な技術ではなく、諸要素の状況を総合的に分析して、地域の問題・課題の本質を把握し、解決策を提案する能力を習得することが目標である。</p> <p>具体的には地域診断の基本理念と手法を学んだ後、特定地域の課題解決を念頭に地域を構成する様々な属性（レイヤ）毎の診断・評価手法を学び、最後には、履修生自身が各講座で得られた知見を踏まえて総合的な診断を実施し、それらの診断をもとにした地域再生提案をとりまとめる。</p> <p>【授業計画】（日程・講師は予定）</p> <p>第1回 4/8（4限）オリエンテーション『鳥の目、虫の目、科学の目で見える湖国』 奥貫隆・秋山道雄・鶴飼修</p> <p>第2,3回 4/15（4,5限）診断基礎①②『エコロジカルプランニングの手法による地域診断』 鶴飼修</p> <p>第4,5回 5/13（4,5限）診断基礎③④『GISを利用したデータ解析』 東義広（滋賀県琵琶湖環境科学研究センター主任研究員）・鶴飼修</p> <p>第6回 5/27（4限）属性診断①『滋賀県の地形・水系の特性把握と地域診断』 倉茂好匡・鶴飼修</p> <p>第7回 5/27（5限）属性診断②『滋賀県の動植物の特性把握と地域診断』 中井克樹（県立琵琶湖博物館学芸員）・鶴飼修</p> <p>第8回 6/10（4限）属性診断③『滋賀県の気象・気候の特性把握と地域診断』 加藤眞司（彦根地方気象台気象情報官）・鶴飼修</p> <p>第9回 6/10（5限）属性診断④『滋賀県の安全・防災上の特性把握と地域診断』 高田豊文・鶴飼修</p> <p>第10回 6/24（4限）地域診断①『エコロジカルプランニングの手法による地域診断の作成』 鶴飼修</p> <p>第11回 6/24（5限）地域診断②『中間報告・意見交換』 鶴飼修</p> <p>第12回 7/8（4限）属性診断⑤『滋賀県の経済・産業動態の特性把握と地域診断』 秋山道雄・鶴飼修</p> <p>第13回 7/8（5限）属性診断⑥『滋賀県の歴史の特性把握と地域診断』 水野章二・鶴飼修</p> <p>第14回 7/22（4限）地域診断③『地域診断に基づいた地域再生提案の作成』 鶴飼修</p> <p>第15回 7/22（5限）地域診断④『地域診断に基づいた地域再生提案発表・講評』 関係教員</p> <p>*学座担当教員によるオフィスアワーを適宜活用のこと</p> <p>【成績評価】 各回授業でのミニレポート（第14回、15回を除く。なお、2, 3回、4, 5回、10、11回は2コマで1回分とする。計10回×5点＝50点満点）、各グループで制作した成果物及びプレゼンテーション（30点満点）、最終レポート（20点満点）にて評価を行う。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に事務局に申請し、ビデオ補講を行い、所定の期日までにミニレポート提出を行うこと。</p> <p>【テキスト、指定図書、参考書】 『地域診断法』（6月発刊予定） 各週の講義内容に応じて、資料を提示、配布する。参考図書等は、適宜紹介する。</p> <p>【宿題及び小試験】 グループでの調査・提案作成を実施するため、授業時間外での活動が必須となる。</p> <p>【履修資格】 近江環人地域再生学座生対象。学座生以外で履修を希望する場合は所定の手続きが必要。</p>	

地域再生システム特論

特任准教授 森川 稔 准教授 鶴飼 修 助教 轟 慎一 ほか

【概要】 地方分権が推進される中で、地域の様々な課題解決を図り、地域の自立性、自律性を高めるには、私たちは何をすればよいのか。その解決策を提案するための理論と実践的手法を学ぶ。授業では、地域再生提案を行うためのコーディネートやファシリテーション、地域診断等の手法及び地域再生の事例を学ぶ。また、講義で習得した手法をもとに、地域住民、行政、学生を含むグループを形成し、設定されたフィールドでの現地調査による地域課題の発見と解決策の提案を行う。

【授業計画】 *第2回～第15回は、9月17、18、23日に実施

第1回	ガイダンス	森川稔・鶴飼修・轟慎一
第2回	地域再生の課題と対応の方向	森川稔・鶴飼修・轟慎一
第3回	地域再生に向けたシステム形成	森川稔・鶴飼修・轟慎一
第4回	滋賀県における地域再生の制度と取り組み	未定（滋賀県職員）・森川稔
第5回	ワークショップの企画	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第6回	地域の現状把握	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第7回	地域の状況1	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第8回	地域の状況2	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第9回	問題点・課題の把握と地域資源の発見	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第10回	まとめ	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第11回	地域再生手法の提案1	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第12回	地域再生手法の提案2	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第13回	地域再生の取り組み	未定・森川稔
第14回	とりまとめとプレゼンテーション準備	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人
第15回	発表と講評	森川稔・鶴飼修・轟慎一・各地域担当・近江環人

【成績評価】 レポート70%、ファシリテーション能力等の実践力評価30%
原則として、全ての授業に出席すること。

【テキスト・指定図書・参考書】

参考書：

御園 慎一郎編「地域再生システム論」東京大学出版会，2007/10

近江楽座学生委員会編著「近江楽座のススメー学生力で地域が変わる」

(株)ラトルズ，2008/11

【授業時間外での活動】

グループ参加者のコーディネート、提案作成等、授業時間外での活動が必須となる

【履修資格】

地域診断法特論及びコミュニティ・マネジメント特論を履修済みであることが望ましい

【注意】

第1回のガイダンスについては4月に実施する。

コミュニティ・プロジェクト実習Ⅱ	教授 松岡 拓公雄 教授 山根 浩二 准教授 鶴飼 修 准教授 高田 豊文 准教授 河崎 澄 特任准教授 森川 稔 非常勤講師 北島 祥浩 非常勤講師 中西 茂行																																																
<p>【概要】 エコ・テクノロジー特論と関連してその内容を実践的に修得することをねらいとする。実習では、主にサステナブル・デザインに必要な自然エネルギー利用技術、パッシブソーラーを取り入れた木造建築技法などについて課題を抽出し、その解決能力を養う。</p> <p>1) 自然エネルギー利用技術 太陽光発電システムおよびバイオ燃料発電システムに関するデータ収集と解析技術を修得する。</p> <p>2) 自然素材利用技術 地域の特性を踏まえた様々な技術の中から、特に土を積み上げる版築構造や木工技術等の実習を通じて、その身近な環境問題解決に向けた技術の一端を習得する。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4/8</td> <td>ガイダンス</td> <td>山根浩二・河崎澄・松岡拓公雄・高田豊文・鶴飼修</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4/9</td> <td>1～5限 バイオディーゼル燃料製造実験、バイオディーゼル燃料を用いたディーゼル発電実験・データ収集</td> <td>山根浩二・河崎澄</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>4/16</td> <td>1～5限 太陽光発電のコンピュータシミュレーションによる実習、太陽光発電システム関係の実習、自動計測・データ分析</td> <td>山根浩二・河崎澄</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>4/23</td> <td>2～5限 自然エネルギー利用技術の活用例</td> <td>鶴飼修</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5/7</td> <td>1～2限 木工および版築構造の制作工程</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5/7</td> <td>3～5限 木工および版築構造の制作工程</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>5/21</td> <td>1～5限 木構造および版築構造の計画</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>6/4</td> <td>1～5限 木構造および版築構造の計画</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>6/18</td> <td>1～5限 木構造および版築構造の制作実習（～第11回まで）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>7/2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>7/16</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>7/23</td> <td>予備日</td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">〔第5回～11回までの担当教員〕</p> <p style="text-align: center;">松岡拓公雄・高田豊文 中西茂行（株式会社雄夢代表） 北嶋祥浩（株式会社アビエルタ建築・都市代表取締役） 畑中久美子（畑中久美子デザイン室代表）</p> <p>【成績評価】 エネルギー系50点＋木工系50点＝合計100点満点で評価し、60点以上を合格とする。なお、15回のうち、4回以上欠席した者には単位を認めない。エネルギー系は出席点（50%）＋2テーマのレポート点（50%）で評価する。なお、木工系については出席状況により評価する。</p> <p>【テキスト、指定図書、参考書】 講義内容に応じて、適宜資料を提示、配布する。</p> <p>【履修資格】 近江環人地域再生学座生のみ対象。</p>		第1回	4/8	ガイダンス	山根浩二・河崎澄・松岡拓公雄・高田豊文・鶴飼修	第2回	4/9	1～5限 バイオディーゼル燃料製造実験、バイオディーゼル燃料を用いたディーゼル発電実験・データ収集	山根浩二・河崎澄	第3回	4/16	1～5限 太陽光発電のコンピュータシミュレーションによる実習、太陽光発電システム関係の実習、自動計測・データ分析	山根浩二・河崎澄	第4回	4/23	2～5限 自然エネルギー利用技術の活用例	鶴飼修	第5回	5/7	1～2限 木工および版築構造の制作工程		第6回	5/7	3～5限 木工および版築構造の制作工程		第7回	5/21	1～5限 木構造および版築構造の計画		第8回	6/4	1～5限 木構造および版築構造の計画		第9回	6/18	1～5限 木構造および版築構造の制作実習（～第11回まで）		第10回	7/2			第11回	7/16				7/23	予備日	
第1回	4/8	ガイダンス	山根浩二・河崎澄・松岡拓公雄・高田豊文・鶴飼修																																														
第2回	4/9	1～5限 バイオディーゼル燃料製造実験、バイオディーゼル燃料を用いたディーゼル発電実験・データ収集	山根浩二・河崎澄																																														
第3回	4/16	1～5限 太陽光発電のコンピュータシミュレーションによる実習、太陽光発電システム関係の実習、自動計測・データ分析	山根浩二・河崎澄																																														
第4回	4/23	2～5限 自然エネルギー利用技術の活用例	鶴飼修																																														
第5回	5/7	1～2限 木工および版築構造の制作工程																																															
第6回	5/7	3～5限 木工および版築構造の制作工程																																															
第7回	5/21	1～5限 木構造および版築構造の計画																																															
第8回	6/4	1～5限 木構造および版築構造の計画																																															
第9回	6/18	1～5限 木構造および版築構造の制作実習（～第11回まで）																																															
第10回	7/2																																																
第11回	7/16																																																
	7/23	予備日																																															